



1 門林栗園の栗。つやのある栗ほど甘みが強いという 2 19年前に会社を退職して、本格的に農業を始めたという門林さん 3 大粒なので渋皮煮やマロングラッセにもぴったり 4 広大な栗園にある栗の木 5 遠足の後に子どもたちから送られてきたお礼の手紙などは今も宝物にしています

毎年500人以上の小学生が栗拾いに訪れるという門林栗園(岩瀬)の門林伸伍さんが栗園を始めたのは40年ほど前。奥さんのトシミさんの知り合いが浜寺など海側に住んでいる子どもたちを連れて来たことがきっかけ。それ以来毎年7〜8校の小学生が同園で栗拾いを楽しんでいます。「都会の子どもたちは、栗拾いが珍しいのか、喜んで帰ってくれます」というトシミさん。遠足の後には子どもたちから、お礼の手紙や作文、詩などが届き、中には小学校6

年間で、栗拾いが一番思い出に残っているという小学生も。以前から栗の栽培が盛んだったという同地域は、「赤土の土壌で、斜面のため水はけも良く、栗の生育には適しています」と伸伍さん。栽培しているのは「銀寄」という品種が最も多く、大粒で味も良いといえます。500本以上あるという栗の木も、最近ではふるさと納税の返礼品としての需要に応えるため、新木を増やしているのだとか。こだわりは農業を極力使わないことで、7〜8月の時期に2〜3回の使用に留めます。また、除草剤は一切使わず、すべて草刈り機で雑草の処理を行うとのこと。



門林栗園

「農作業で体を動かし、頭を使うことで心身ともに健康です」という門林ご夫妻。栗の販売場所 あぐり河内長野、あすかてくるで河内長野店
栗の販売時期 9月中旬〜11月中旬
※問い合わせは産業観光課へ

これまでの栽培で大変だったことは、夏の台風で栗の実が大きくなる前に落ちてしまったこと。逆に雨が降らず、乾燥しすぎて実が落ちてしまったことも。最近ではイノシシの被害も多く、

かわちながのものづくり探訪

Made in Kawachinagano

25

栗拾いで子どもたちに 楽しい思い出を 門林栗園

「毎年秋になると当園の栗を楽しみにしている人がたくさんおられることが嬉しい」という伸伍さん。そして、「小さい子どもが喜んでる姿を見ると元氣になります」というトシミさん。ご夫妻は栗拾いを通じて人と人とのつながりや、ぬくもりを感じることで栗栽培の原動力をもらっているようです。



▲河内長野市産品ブランド、奥河内ながの foodo 認定品の「萩原の栗」(栗園がある地域はかつて萩原とよばれていたとのこと)